

上智大学・カトリック高等学校連携協定校対象
高校生タイ・スタディーツアー

第1期 (2024年3月実施) プログラム実施レポート

連携協定初、上智大学と高校生の
海外教育プログラム

上智大学と全国のカトリック高校との連携協定が結ばれ、上智大学SFDP推進室および上智大学タイ教育事業会社SophiaGEDが、タイ・バンコクをフィールドに、連携協定校の高校生を対象としたスタディーツアーを企画・実施しました。

全国26校から123名の申し込みがあり、抽選で各校1名、26名が参加。全員元気に全ての行程を経験し、教員・スタッフ・参加者の協力により、第1期となるプログラムを創りあげることができました。

「新しい環境・機会を自分に取り入れ、学びや力に変える」

上智大学と高校生との海外プログラム。全国各地から初対面の高校生メンバーが集まり、大学教員や大学生スタッフと一緒に海外のフィールドで多様な経験をし、各自の学びを追究しながら、互いに学び合える新しく充実の学びの場となりました。

新しいコミュニティ・環境での大学ベースの学習体験が、高校生の未来へつながる力となるよう、特に、自分の目的意識や自律的な学び方がより重要となる大学への接続を意識して、「自分たちで自分の学びを創る意識や、新しい環境での経験を自分の学びとして取り入れる力を伸ばすこと」を目標に置きました。

現地の大学・企業・ローカルコミュニティ・スラム地域支援団体など、多様な層にわたる訪問先で現地の方々やタイで活動する日本の方々との対話や交流・現地活動を通じて学んだり、自分達で目的や手段を決めて現地に飛び込んでのフィールドワークも経験。そして、貴重な経験や思考はワークブックへたくさん記録し、まとめのセッションでは、書き溜めた記録を可視化・構造化し自分の学びをしっかりと掴むことも試みました。

高校生のみなさんは、実体験を伴ってタイの文化や社会の理解・異文化や新しい物事へ向かう姿勢・個人の興味分野等においてそれぞれ新たな発見や自身の成長を見出していました。また、プログラムで培った学び方や姿勢を今後も継続・応用していく意識や、短期～長期で実践したいアイデアや将来のキャリアイメージにも繋げていました。

大学も、高校生のみなさんと新しい学びの場に挑戦できた貴重な経験を、今後の力に繋げていきたいと思えます。



実施概要

日程 事前ガイダンス 2月25日(日) (オンライン実施)
渡航プログラム 3月18日(月)~23日(土)

参加者 上智大学カトリック連携協定校 高校1,2年生26名

担当者 新 江梨佳
(上智大学特任助教/SophiaGED教育プログラムディレクター)
Visarutta Thankongsay
(SophiaGEDシニアプログラムコーディネーター)
上智大学 学生インターン



場所 タイ・バンコクと周辺地域

主な活動 現地大学・地域支援団体・地域コミュニティ等での多角的な体験学習
自分で設定するテーマやミッションに基づくフィールドワーク実践
発見や経験を学びにつなげるワークショップ

企画実施 上智大学 学事局 Sophia Future Design Platform 推進室
Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (SophiaGED)
(上智学院 タイ教育研修事業会社)

日程	場所	活動内容
1日目 3月18日(月)	各地・東京 バンコク	(各自移動)日本各地 → 東京・成田 移動:東京 → バンコク(空路)
2日目 3月19日(火)	バンコク ナコンバトム	タイ文化体験 仏教寺院訪問・体験 大学訪問 キャンパス見学、英語レクチャー 現地生活体験 市場体験
3日目 3月20日(水)	バンコク	地域文化体験 地域の方との文化ワークショップ 社会課題学習 スラム地域支援団体訪問
4日目 3月21日(木)	バンコク	エリアフィールドワーク 寺院エリア/商業エリア/日本人街でグループ探索 グローバルキャリア学習 日系企業訪問・夕食交流
5日目 3月22日(金)	バンコク	自己計画フィールドワーク 総括ワークショップ 移動:バンコク → 東京(空路)
6日目 3月23日(土)	東京 各地	東京着 (各自移動)東京 → 日本各地

実施の様子

1 多様な経験・体験

自らの経験をもって実践的・多角的に考える

渡航プログラムとして、自らの経験を持って考え学ぶことを重視。寺院・地域コミュニティ・大学・日系企業・商業地・スラム地域支援団体など多様な層にわたる訪問先を取り入れ、能動的に取り組む活動や体験ベースで学べる機会を設けました。

自らの経験を持って多角的にタイを捉えたり、多様な経験から個人に応じて学ぶポイントを見出したりできるよう、思考の材料となる多くの経験・実体験を重ねました。



マヒドン大学訪問 (2日目)
タイトップ大学のマヒドン大学を訪問。大学生と言葉や多様な手段を工夫してコミュニケーション。タイ語を教えてもらったり、現地教員の英語レクチャーで双方の国の文化を題材としたテーマディスカッションに取り組みました。



地域コミュニティ訪問 (3日目)
地域の方々に教わりながらタイの伝統菓子作りや工作を体験。文化体験に加え、住民の方が暮らすエリアの環境や雰囲気を観察・感じ取ったり、覚えたいタイ語で現地の人に気持ちを伝えることを試みました。



スラム地域支援団体訪問 (3日目)
貧困層の方への支援団体を訪問。レクチャーに加え、地域を実際に歩き、人々の暮らしを体感しつつ、あたたかい住民の方々と挨拶を交わしたり子どもたちと交流。直接の関わりで認識を新たにしつつ、社会課題を考える機会となりました。

2 自律的な活動実践

自分の意志で学びや活動を創る力をつける

大学や将来に向け、自ら考えて動き、自由度を活かす力を伸ばす機会を意識。大学訪問など比較的内容まで用意された活動から、徐々にテーマや手段を自分で設定して実践するフィールドワークなど参加者自身が考えたり決めたりする活動へ移行。参加者みんなでルールを決めての自由行動時間も設定しました。責任や難しさも含めて自律的な活動の面白さを体験し、できることが増える自信もつけながら、先への姿勢に繋がりました。



エリアフィールドワーク (4日目)
自分のテーマと具体的方法・ミッションを設定し、グループ協力しながらエリア内を自由探索するフィールドワーク。観察・体験や現地の人に話しかけながら、タイや自分の興味について実践的に理解を深め、同時にスキルも伸ばしました。



自由探索フィールドワーク (5日目)
自分達で目的・行き先・活動を設定して自由探索。博物館等で独自の観点でタイを深く学んだチーム、電車で新しいエリアを開拓をしたチーム、目的のアイテムを現地の人に聞きながら探したチームなど、楽しく積極的に行動できました。



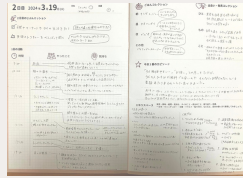
自由行動時間 (2-4日目)
みんなで決めたルールに沿って、ホテル戻り後の時間も自己管理で近隣を散策しタイを体験できる時間。お店の方と顔見知りになって馴染んでいたり、安全管理のスキルを自分の体感を持って高めたり、実践的な時間となりました。

3 経験の言語化・構造化

自分の経験や思考を整理・認識して学びに変える

経験や思考を言語化・記録・構造化し、自分の学びを意識的に捉える学習活動を、全体を通した軸としました。

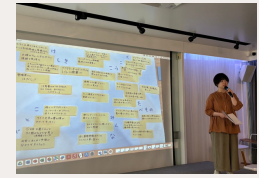
プログラム用に作成したワークブックを用い、自分のミッションを言語化してから開始したり、日々の活動記録を每晚ホテルで各自しっかり記録。最終日には書き溜めた記録を付箋に書き出して俯瞰し、全体の学びを可視化・構造化することで、自分にとっての学びや成長をとらえることを試みました。



ワークブック記録 (プログラム全期間)
A5開きのワークブックページの項目に沿って、1日の経験や気持ちを每晚しっかり記録。イラストを用いたり自分なりの使い方でも熱心に取り組みました。「1冊書き終えて、自分だけのノートが出来上がったことが嬉しい」という感想も。



ラップアップ: 経験や思考の整理 (5日目)
日々書き溜めた記録から付箋に書き出すと数十枚に。繋がりと重みを考えながら全体を整理し、プログラムを通じた自分の学びを掴みました。「体験が可視化されてわかりやすくなった」「たくさん学びを得たんだと少し感動」と実感も。



ラップアップ: 各自の学びの発表 (5日目)
付箋で整理した紙をスクリーンに投影しながら、1人1分で自分の学びを発表・共有しました。タイに関する知識の深まり、自分の興味分野の発見、自身の成長、今後に向けた抱負などが語られ、参加者同士でも学びや刺激がありました。

+ 参加者同士の交流と学び合い

全国各地からの初対面のメンバーが、新しい環境で経験を共にしたり、それぞれの視点を共有できる機会自体が、高校生にとって大きな刺激となっていました。短い現地プログラムの中でもより深く交流できるよう、渡航前のフェーズからLINEグループでの自己紹介やガイダンスでの交流も行いました。



オンラインガイダンスから交流



クロージングセレモニーの様子



協力して充実のプログラムを創り上げました

参加者の学び

タイの文化や社会に関する学び

自分の観察や実体験を通じたタイの理解、日本との比較の観点からの考察、タイの社会課題に関する理解や検討等。

- タイでの生活を知り具体的なイメージを持つことを、様々なマーケットを訪れたり、タイで生活している人達からお話を聞いたりして達成することができました。最初は「とりあえずタイを知る」だったが、「タイに住む、タイで学ぶ」という考えを持つ契機になりました。
- スラム街での子どもたちの笑顔がかわいく元気でした。でもその背景にタイが抱える社会問題、問題に向きあって支える方々の活動を実際に見聞して、貧困問題を考えるきっかけにもなり、自分を見つめ直すきっかけにもなりました。

異文化や新しい物事への姿勢に関する学び

価値観やコミュニケーション力などについての気づきやスキルアップの実感、実際の経験や自ら積極的に動く意義についての体感を伴う理解等。

- タイだけじゃなくて、初めての海外としてもとても貴重な体験だった。自分の文化や価値観が全てではないということが分かった。だから物事が考えたおりに進まないこともたくさんあって、柔軟性とか対応力が必要になると思いました。
- 現地の方に話しかけることを達成できた。つたないタイ語や英語、そしてジェスチャーでも会話することができ、コミュニケーションにはもちろん英語も必要だけど一番は話そうとする意思や聞こうとする優しさが必要なのだった。

自身の興味・関心に関する学び

自分の新たな興味の対象の発見や、自分の興味分野での知識の増加・深まり等。

- 自分のノートをながめているとタイの建物についていろいろ書いていて自分はやっぱり建物が好きだと思った。
- 今までは日本の子どもの福祉にしか興味がなかったけど、タイに行っている人々を見て体験して世界の子どもの福祉についても学んでいきたいと思った。
- 様々なものが一気に押し寄せてきたり、自分で見つけにくい力と養ったりととても充実した日々になった。徐々にタイ語も食べ物にも自分から挑戦できるようになり、広告など興味のあるものを一生懸命調べられた。

今後への接続 プログラム中に養った姿勢や学び方の継続・応用、短期～長期で実践したいことのアイディアなど

- 日本でもたくさん、「なぜ」を持ち、それを解決し、知識をたくさんつける。今回の旅で自分の目で観察し疑問に思いそれを質問したりして解決するというのがよかったから今後も続けていきたい。
- 自分の学びたいことを見直すべきだなと思いました。日本に帰って自分の学びたいことを具体的に決めるためにたくさん調べたい。
- 観光でも留学でもいいのでまたタイに行きたいです。他のコミュニティの文化が気になりました。英語だけでタイを知ろうとすると限界があるので、タイ語も難しそうだけど勉強してみたいと思いました。
- 自分が好きなこと/興味があること、これからの生活で大切にしたいこと、どんな生き方をしたいか、将来の選択についてたくさん考えることができた。いつか子どもたちを守る人に！そんな活動をしてみたい！